

高機能広汎性発達障害（アスペルガー症候群）の理解と対応

奈良県立医科大学看護学科
教授 飯田 順三

常に“明日のために”ではなく、
毎日毎日が楽しく送れることが大切だと思っています。

本稿は

平成15年7月12日に開催した
奈良県立教育研究所の開放講座における
飯田教授のご講演をもとに、当研究所において

再構成したものです。

はじめに

広汎性発達障害
（自閉性障害
レット障害
小児期崩壊性障害
アスペルガー障害
特定不能の広汎性発達障害

DSM - より

*アスペルガー症候群は ICD-10 の表記である。本稿では「症候群」と統一して用いる。

高機能自閉症

知的障害のない自閉症

アスペルガー症候群

- ・知能が一番高い自閉症
- ・対人的交流を求められど一方的なため孤立しやすい
- ・文法上は正しくむしろ饒舌^{じょうぜつ}にお話できるけれど、文脈に合わせることができない
- ・自分の興味のある話題にこだわってしまう
- ・独特の興味に没頭する

有名人！？

柳沢教授（主人公）
ミスター・ビーン
アインシュタイン

自閉症にはいろんな仲間があり、それらを**広汎性発達障害**と言っています。広汎性発達障害には、自閉性障害、女の子だけに現れる運動の障害が顕著なレット障害、あまりいい名前ではないのですが、ある程度発達が進んできたのに、ある時期から急に落ちてきてしまう小児期崩壊性障害（折れ線型自閉症）、アスペルガー症候群*、自閉症傾向はあるのだけれど、明確には診断しにくい特定不能の広汎性発達障害の5つのカテゴリーがあります。それらをひっくるめて**広汎性発達障害・自閉症スペクトラム**と言います。

自閉症スペクトラム

ウィングが用いている用語でカテゴリーで類別するのではなく連続体として捉えようとするもの。広汎性発達障害と、ほぼ同義だが、スペクトラムの方がやや広義である。

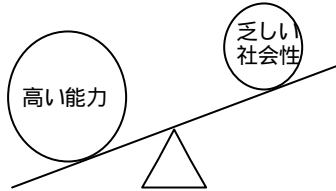
その中で、知的障害のない自閉症のことを**高機能自閉症**と言います。高機能といっても、天才的な能力のある自閉症のことを言うのかというとそうではありません。普通の知能をもっている自閉症のことを言います。ただし、アスペルガー症候群は、自閉症の仲間の中でも一番、知能が高いという言い方ができます。

高機能自閉症とアスペルガー症候群が、同一疾患であるのか違うのかということは、研究者の中でも意見が分かれています。まだ、はっきりとしていません。ニュアンス的に言うと、**高機能自閉症は、明確に発達障害であって、自閉症的な面が非常に強い一群**です。知的レベルは高いし、言葉ももちろんあるのですが、私たちが面接すると、自閉症のタイプだと分かりやすい人たちです。それに比べて**アスペルガー症候群**というのは、**自閉的傾向なのか、性格の歪みなのか**と思うくらい**分かりにくいタイプ**の人たちです。

実は、それらの子どもたちへの理解と対応は両者だいたい同じなんです。同じでいいようなものを、わざわざ分ける必要もなく、研究者の興味の範囲内の話ということになります。それは発達障害を解明していく上での試みであります。従って、子どもたちを目の前にすると、**高機能自閉症もアスペルガー症候群も同じように考えていい**と思います。

『柳沢教授の一日』というテレビドラマがありました。あの主人公は明らかにアスペルガー症候群です。他に、イギリスの『ミスター・ビーン』の主人公も同じ症候群です。

また、おそらくそうではないかと思われているのがアインシュタインです。アインシュタインは4歳まで言葉が出なかったそうです。ものすごく視覚的な考察が鋭くて、有名な論



社会適応性の悪さ

頻度

自閉症スペクトラムの知能 (%)		
遅滞30	境界20	正常50

カーデショー-1999

自閉症スペクトラムの男女比	
男 4 ~ 5	女 1

文『相対性理論』もそういう思考から発想されたと考えられています。現代人で有名な人は、コンピューターソフト会社M社のBさんもそうではないかと考えられています。というように、アスペルガー症候群の人たちの中には、とても優秀な能力をもっている人がたくさんおられます。

しかし、みんながそうなるわけではなく、IQが高くて、ペーパーテストをするといいい点を取るんですが、社会性が乏しいがゆえに、お金を稼いで自分で生活できる人は少ないようです。就職しても、社会性が乏しいために離職し、次の職を探すときには、学歴やプライドが邪魔になって、自分に見合った就職ができないという方が結構いて、自閉症の子どもさんより社会適応が悪かったりすることがあります。知的レベルが高いがゆえに大変だということもあるといことです。

広汎性発達障害・自閉症スペクトラムとして考えるとざっぱに言って100人に1人いると考えられています。これは、ものすごく多い数です。その中で、診断基準をみたく自閉症は、その半分くらいです。残りの半分近くがアスペルガー症候群になるということなんです。

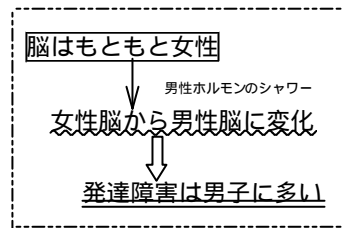
また、男女比で言うと男子に圧倒的に多い疾患です。



もともと脳は女性なんです。一つの生命が誕生して、神経の源のようなものができて脳が進化していくんですが、一番初めはみんな女性なんです。ところが男の子の場合は、男性ホルモンのシャワーを浴びて男の子の脳に変化していくのです。一つややこしい過程を男の子の脳は通ることになります。

女の子は育てやすいとか、よくしゃべるとか言いますよね。それは本当なんです。女の子の方がスムーズに発達するので、成長も早いんです。

また、一つの理論として、次のようなことも考えられています。例えば、母体内で何らかのウイルスの影響を受けたとします。女の子の脳は発達しているので、それを跳ね返す力があるんですが、男の子の場合は発達が未熟なために、そのウイルスをまともに脳が受けてしまうのです。そうすると障害を起こしやすいということがあります。あるいはお産のときに産道に頭をぶつけても女の子は跳ね返せるんですが、男の子の場合はそのとき受けた障害が残ってしまうのです。



自閉症・アスペルガー症候群の人は、象徴化(シンボライゼーション)が難しい。

言葉の獲得もその一つです。例えば、「それは椅子です」と言ったときに色や形が変わっても“座るもの”とひとくくり(カテゴリー化)できるので、言葉が獲得できるのです。しかし、自閉症の人はそれが非常に苦手なので、それが椅子だと教えられても、あれも椅子だとは分からないのです。

